

汽水・淡水産十脚甲殻類

種名	シオマネキ (<i>Tubuca arcuata</i>)
指定をする理由	本県では浦戸湾とその周辺、須崎市の桜川の河口、四万十川と竹島川との間の三角州等で生息が確認されているが、その個体数は少なく生息域が限定されている。
形態	頭胸部の長さは40mmに達し、雄では左右いずれかの鋏脚が巨大化し外側は朱赤色で顆粒に覆われている。雌では両鋏脚が小さい。左右の伸長した眼柄も特徴で、体の色は茶褐色である。
生息分布状況	本県の干潟の砂泥地は主要生息地の一つで、6月から9月にかけて抱卵個体が見られる。放卵後孵化した幼生は、後に干潟へ回帰する。
種の存続を脅かす要因	極限された生息地、生息地への汚水の流入、開発等による干潟の減少。
保護に関する指針	県内全域における本種の捕獲等については、知事の許可を受けた場合のみとする。
高知県レッドデータブック掲載状況	VU(絶滅危惧Ⅱ類)
高知県希少野生動植物保護基本方針該当項目	・種の存続が危慮される程度の個体数の減少がみられる種 ・生息地の環境が著しく悪化する若しくは消滅しつつある種



写真:酒井勝司